

# 投稿の泉

潜水士と羽田航空基地所属のヘリコプターによる漂流者吊上げ救助訓練が行われ、その後、当救難所員による漂流者救助や心肺停止状態を想定した要救助者のダイバーの救助訓練を行いました。

## 千葉県水難救済会

### ◆房総広域救難所

#### 救難所として初めての漂流者救助訓練

房総広域救難所の前身は、平成三年に千葉県内のダイビング業者が事故防止などを目的に設立した協議会でしたが、今年の六月、県の水難救済会に救難所として加盟、活動を始めました。

これまで海上保安庁の指導を得て、事故防止を目的とした訓練と講習会を行つてきましたが、今年は救難所として、漂流者の救助手法を習得する目的で、十一月六日、千葉県館山市西川名地先のダイビングスポットで実態に即した訓練を行いました。

訓練は、まず海上保安庁の巡視船「いず」



ダイバーの心肺蘇生訓練



漂流者吊上げ救助訓練

ダイビングスーツをハサミで切り裂き、A

E D（自動対外式除細動）を使用するなど、救助機関に引き継ぐまでを検証した訓練内容でした。

その後、安房郡の医師会の医師から、ダイバー救助に際してのアドバイスをいただき、また、医師とダイバーの間で質疑応答が活発に行われました。

予定では、安房郡市消防本部の救急車も

訓練に参加していただき、引継時の要領などについて説明をして貰うことにしていま

したが、緊急の本番出動があつたため、連携した訓練ができなかつたことが悔やまれます。

潜水搜索技術の維持向上には、海上保安庁潜水士からの定期的な指導などが必要不可欠なので、今後とも関係機関との連携を深めていきたいと考えています。

なお、この訓練には、当救難所関係者のほか、千葉県、館山市、海上自衛隊等からの見学者が約一三〇名ありました。また、訓練がNHK千葉の取材対象（後日、その模様が首都圏ネットワークの番組で放映されました。）となつたことから、会場となる港周辺を数日前から地域の住民が入念に清掃を行つたこともあり、約百名の地域住民の見学があり、ヘリコプターによる漂流者吊上げ救助訓練では盛んに歓声が上がつていました。

## ◆九十九里町救難所

### 女性救助員

前人未踏の出動五〇回達成 !!

「サーファーが流されています！」との

通報に、

「場所はどこ？何人？……すぐ救助に向かわせます！」

と的確に受け答えして対応する千葉県水難救助隊は、日本水難救済会会長から、女性として全国で初めて救助出動五十回の栄えある表彰を受けられました。

また、成川さんご夫妻は、これまで海上保安部や消防機関からの出動要請に対し、海上保安部から安全パトロールに指定されている救助艇「つくもV」で荒波の九十九里海岸の海に出動し、海上保安庁の特殊救難隊との合同訓練以来、同級難所のモットーとしている「苦しい 疲れた もうやめたでは、人の命は救えない」の信念のもと、多数の人命を救助されている。

（成川龍郎さんは昨年十一月にご逝去されました。謹んでお悔み申し上げますとともにご冥福をお祈りいたします。）

救済会九十九里町救難所救助員の「成川清子」  
(なるかわ せいこ)さん。

